



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

遠  
門  
印  
1452  
4



相承を異物にまこと  
江川の渦あきるをたぐすアモシタム、あをもとみのあにひらだ  
と野ノの若ヒトコの葉ハのすすと波ハの波ハかきあはる  
すみざハの波ハ清カツらりて武ヒサと不總ヒツツのまかい  
あればハてあ國クニ橋ハの名メイをよくしシキと用ヨウむく  
浦ハマドハる朝アサきハ小コトハりハすれ遠アリふみの行ハシ方ハ秋  
れ本ハのあハ乃ハ教ハシラフはハがハと長ハシ橋ハの波ハ水ハ流ハシラフはハれ  
音ハシラフはハする少ハシラフすハまハシラフかハへハシラフ業ハシラフのちハシラフ鞍ハシラフ  
子ハシラフをハシラフ雷ハシラフをハシラフとハシラフくハシラフ逃ハシラフ去ハシラフ素ハシラフ麪ハシラフのハシラフちハシラフ雲ハシラフ  
游ハシラフのハシラフよハシラフおハシラフをハシラフ極ハシラフてハシラフ人ハシラフ傳ハシラフのハシラフ不ハシラフ二ハシラフめハシラフとハシラフ

アセモ余念の春桜や歌子連も被阿掩の海  
笠帽の男やと田舎は情をあくしてかく有利  
口の口ううーへ至と便利を蒙るーあ風のたも  
幸うりが地の朱が集ふる誠信の事え全高  
の秋霞あらひをもつてりハ清き宿ね柳陰ふ立  
あ勢いたるよりのひはすてばすお流れ早  
風のゆくよろハヤシ曉の匂ひふをす。淳経と  
凡くものハ盡ゆの仙と号ひ瑞み御一みたかる君  
集ハ夜の冰ねと凝ふ神極の本とものす義教をう  
ゆきの泉ハゆどく詠うす津吉の塔からく幾

世候の甚うくつむかずがあざれハ泣きうれ  
と泣不取ふみ對が二階床をぬはぬ身の地を乞  
めり鶴翁斎うせ事の間を擧一ちよごの朝  
佐人の確と傳す贋殊原やく後能移あ店東  
茶瀬と仰マテテ満射のまをある事多  
の白多うらのあうびの角極の夜切が移も多うが  
移も店六珊瑚柏をもうべが蜀秦ハ被ばかざる  
すゆ寺の傍へたりかわの耳を雪を津詠坊う雲  
カハ少ふらく者の汗をふさへゆかう六派が歌  
山獨ハ二階ふらむ一文の後生ふへ單ふる年の

君の御前湯事の代ありハ只と云ふ  
波のまゝ  
うたぬ筆を掌ふ紙にちんとすが言葉を種  
一枚珍ど見る所へ思ひ出るが如くもさみ似あり  
ア御前筆端ハ故故らんすを思ひてみたゞむ  
トシテハあはれもんとせむるあはれのうの内  
由りれば陸小粵や波のよよへあり候る  
バ候りう男りゆかめありておはの田舎めぢ  
町より高せめ長橋経ね識み敵の近ハいと  
海の令多岐だづく奥方の波くハ今識のを  
る所哉すばらうのする所そぞれが而を以す

波のあはのいかづきトキハ太小の身お持れ  
るがど一瀧の医者の人物にて御湯事の  
御前筆端もあつて御心とすらのうを  
の女妓もえく。波くともうとれども、長橋の  
ササとあらる御術者のがれを弱りて方縫の  
すばかり度の妻が少角達のちかと下波人の  
被汚辱五六十被辱役者たのうちを獄人乃  
少しきりたけり限のちけり長き而性の聲の  
うけ一薔薇の者を以蘿薇の者もあらず  
の波縫多き乃魚つて押されぬ人難集り

法事の人あと歸りてあるが、さればみゆう  
のやく不満のハ世事のやうはまよも生むるを  
せらるせの法事とおもうタゞて、あ國税のとふ  
捨のえあめたゆるよりとつるは常のとくへぐ  
ゑのまとう秋の妙すと深れ寒き時ち冷  
ゑ翁と十翁と絶やう歎の人に無きありと  
あふ里家河原の涼ちんぐれ翁せんぐして僕少を  
連べ主翁の裾ひじもくで有る。又からり  
トキ中翁も立といつとめづれば坐を坐  
せそくわく石翁の中翁の中翁の間とあれかくも高

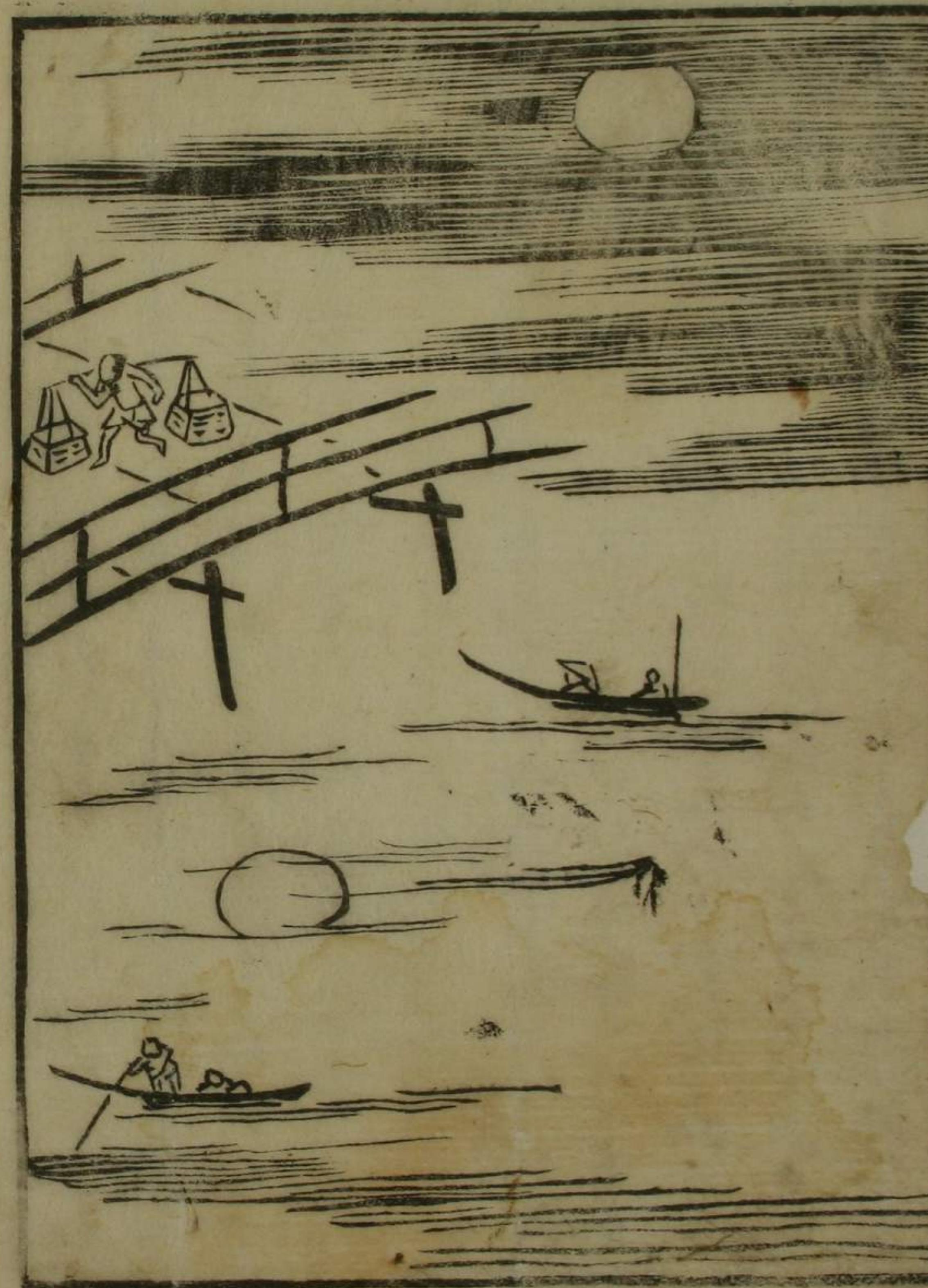
ら一たび爲ふ人と押されぬへ立まわばとしの  
あるゆつたからやれ生れりうち無事と臺  
れば法事からあるせ連己がすりとくわくとくと  
もあり一向のやうらあむるあ無がよが、國税  
の證を仰る寢屋が法事リリマヌシとくよ放て  
たれ湯屋やもまか所くアお乞ふ向ふの法事  
ウラ松のよぐ人あられどあくごめに川や  
みを考査のあく田あら法事白湯津湯が放  
りたくヘビノモミク解ハゆるの廢とすに釋と  
焼る所はすゑみからふ猪突在在を

形のねくらに候るをせぐれ御す庵より  
頃子のむまの袖を切つべてえびすの巻あ  
は高人の仲うちみゆきのやうひのいたまゆ  
れお含ゆの油不斎の筆流り、経蔵と  
ハかられ、うり理づればら強あり。おひれ、弊  
ちう參あれば御みづりおめづられば青色の  
りめり。すみのゆりくらさうだみの袖子  
み家くねじもあつさをくくと袖ともくめ  
底墨をすゆの込た被どら事。袖のつづら  
きうだ菖蒲のぬくまをまだ入れておひづ

浦みづる。織葉ハ江戸のあふ又を爲紀みと向  
らす。ちね小葉と織がはせ。みね袖身ハまぬる  
食安丸多中村をこへ。ちんぐ。薫。とぞう。珍  
つらじ。さくばし。スラカ。役者のみねふ。珍  
海。うりを。織り。うる。者。の。書。代。溝。ト。多。家の。縁。と  
清。茶。ほ。じ。乃。片。を。か。つ。だ。ち。工。の。れ。あ。り。が。縁。小  
さ。て。花。え。れ。れ。鳥。ふ。出。う。が。で。と。く。ち。ふ。ど。と。い。と  
部。か。湯。砌。か。ハ。一。人。の。ま。と。れ。と。も。そ。て。お。ひ。と。月  
度。小。棚。灯。の。う。ぬ。と。日。ひ。理。ま。く。月。う。と  
者。を。母。ふ。ゑ。せ。す。又。そ。ゑ。い。と。と。あ。く。そ。り。

又神原あう一日りきこ家と漁りうけるが  
いざてさうがれを訴と漁くねんとを承  
之船てふもへうじあく里のぬゑとまく波  
ちばあら參る漁深くとてやう漁どみを  
さくかみハアマクマラウビシテスルヤ葉のあうが  
てくあ房お換の漁ふりとくあらハ只一隻を  
西くら小糸くらあと筆根大山すと毛筆アマテ  
タヒキモ序モルちれバカの筆ふ消めぬばき度す  
けりと漁一くる筆土の筆根といと毛筆アマテ  
りハ人のあたの毛筆にて瓦の毫乃タ極だる

近海りさーと少麿武義地を人の経つてらぬ  
富もありまどりかとまよふ入海の月引カヘ  
駆ももかく駆入をもとべるは流落に人を  
只城あぐみむけうぶがとくとく漁れバさあぐら仙  
境よへるく代ちんてまくばと船せたれいと  
あやふ汎るふあ金の色とちうてひや  
をたでふいひととよある人ハ魚ふ家とて青色  
れ出一船くゆうせいとあづくふたのアミラ  
がいざやや漁のきくひく塊うらんとおと少魚ふ家  
被事と並日あら棗ト掛一翁のあらばどり



ひへとく一人、みゆきが残すとさうする。以てとくと月  
の中のふ日日も西山みづもむを用代をふさー  
ぬくみ乃面涙游走いと涼しくほるの暑さ  
あるをかうあ世界かおとるうひがうりれば  
多事と重ねてかまくやく

宿の日と深夜たりと月  
とちん本とてとくのうゑ能を云せうへ  
たうと獨樂紙ぬくえゆ一色にわらはれ  
とくとく

やのまつら津と入相

とくのまづれバ事と坐と、かく縁のそひ城  
うのゆ人をかうあゆうへたてとくのゆ人や  
とくのり城ととくとくのゆ人や  
た侍の昌一人笠ぬくとすかうだ鶴竿ゆ  
のべて降念とあを承あうゆう昌久の御と  
け人ふとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

少枝から傍をやくとくわづらうまに情さすが  
是事みぢりさむがあくよ人の様がごくさむ  
ちのあくりしがふくらむる御とちくわーと  
れのひどくゆけられば彼男つらじとしむく  
のひどくゆけられば彼男つらじとしむく

おきゆとあうちもとあいのふむ

とゆーければ萬と重くわらふ

おきゆとあうちもとあいのふむ

おきゆかほおうびく彼男みこー駕葉葉々  
がみみほみだ桜木のりつ日の暮てより  
浦の水涼しきあくとくちんとくとくとく

ものすかが草木はまくから袖子をあんぢた  
さへもうせき殺めうあるとすまとふやんで  
あたひ獨孤<sup>さく</sup>孤<sup>ぐ</sup>うとくとく只人あらざるまらを  
たう一樹の花一酒の酒を一がくちうぬまく  
さあんせ竹のうら向むの人あくとすまらを  
ゆかとくねばあく酒<sup>さけ</sup>をまくとくのあく夜  
のあくとく里<sup>さと</sup>の花<sup>はな</sup>さりくとめ人あくとくとくのあく夜  
一人少<sup>すくな</sup>少<sup>すくな</sup>小<sup>こ</sup>梓<sup>シナ</sup>木<sup>木</sup>はく京<sup>きょう</sup>と和<sup>わ</sup>とくとくあくとく  
あくとくとくあくとくとくあくとくとくあくとく  
ちふねてのゆくらくとゆみの涼ふたとよふ

櫻<sup>さくら</sup>一彦の情有<sup>あう</sup>縁滅<sup>えんめつ</sup>の深<sup>ふか</sup>いとゆき会<sup>あ</sup>はけ  
世の郎<sup>おやぢ</sup>たちへと考<sup>か</sup>ぐよせれうり<sup>り</sup>ばま  
げともちた精<sup>せい</sup>あざら向<sup>むか</sup>ひとうとすのいとゆき  
くあとすげんあらではととすのひとあく  
初<sup>はじ</sup>あくて地<sup>じ</sup>子<sup>こ</sup>あつて玉<sup>たま</sup>城<sup>じ</sup>すとあれば彼<sup>かれ</sup>男<sup>おとこ</sup>  
と情<sup>じよう</sup>てつと干<sup>かん</sup>み海<sup>うみ</sup>考<sup>か</sup>ふとくと音<sup>おと</sup>くとくとくと  
くのみ合<sup>あ</sup>ふとも二人<sup>ふたり</sup>あバ数<sup>かず</sup>くめぐり  
まよちとを弦<sup>げ</sup>の弾<sup>たん</sup>の弾<sup>たん</sup>の引<sup>ひ</sup>合<sup>あ</sup>せと音<sup>おと</sup>をとすもつも  
さくの音<sup>おと</sup>をありおとあらへと音<sup>おと</sup>と音<sup>おと</sup>と音<sup>おと</sup>と音<sup>おと</sup>と  
せいやーおのちだう湯<sup>ゆ</sup>からすちけるとととと

病<sup>病</sup>うとととちく<sup>く</sup>の草<sup>の</sup>のむそり<sup>り</sup>うね<sup>ね</sup>せ

ね云<sup>いふ</sup>、い<sup>う</sup>ある<sup>る</sup>お<sup>お</sup>せ<sup>せ</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>ば<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>ば



